読売新聞の医療サイト

yomiDr. ヨミドクター にて、当院が紹介されました

東邦大学医療センター佐倉病院

インタビュー

バイパス手術は人工心肺を使わないOPCABが主体

心臓血管外科 教授
本村　昇

手術の技術や機器類の進歩によって、体への負担やリスクが低く抑えられるようになり、心臓手術の安全性は向上しました。心筋梗塞や狭心症に対する冠動脈バイパス手術は、人工心肺を使わず心臓を止めずに行うOPCAB（オフポンプ冠動脈バイパス手術）が主流になりつつあり、当科でも可能な限りOPCABを実施しています。この方法だと輸血量が従来の３分の１程度ですみ、輸血が必要ない例も当科の場合６～７割に上ります。
高齢者が増え、それに伴って複数の疾患を持つ患者さんも増加していることから、体への負担が少ない低侵襲手術の需要は高まっています。現在、OPCABのほかに、大動脈瘤に対して脚の付け根からカテーテルを挿入して人工血管をするステントグラフト内挿術も行っていますが、弁膜症の治療でもできるだけ低侵襲手術を取り入れたいと考えています。

しかし、手術は低侵襲であっても術前の緻密な検討が必須で、それが手術の安全性確保につながります。複数の疾患を持つ患者さんは特に注意が必要であり、院内連携の重要性が増しますが、当院は医師、看護師、検査、事務などどのレベルでも相談がしやすく、診療科や部署の垣根を感じることがありません。このことは間違いなく患者さんに大きなメリットをもたらします。
心臓血管外科は、不整脈に対する外科治療や心臓ペースメーカー植え込み術、下肢静脈瘤に対するレーザー焼灼療法やストリッピング術なども行っているので、気軽にご相談ください（※）。
※かかりつけ医の紹介状をお持ちください。

頼れる病院検索サービス

読売新聞の医療サイト
yomiDr. ヨミドクター 病院ガイド 検索サービス
ヨミドクター病院ガイド　検索

hospital.yomidr.jp